

温泉地に求められるトータルデザイン力

一杯のお茶を求めて旅が計画される、その旅先は嬉野。

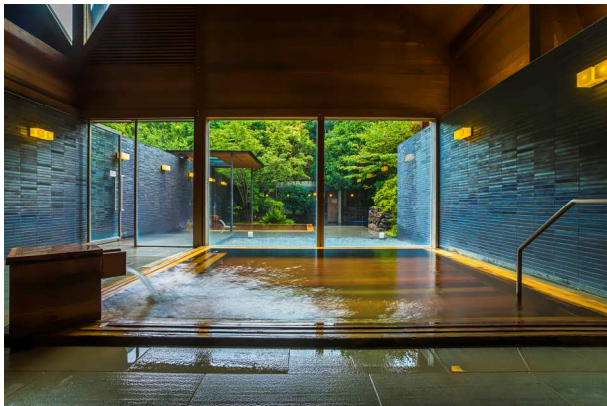


## 温泉・うれしの茶・肥前吉田焼の三つの歴史的伝統文化が共存する土地

佐賀県西部に位置し、1,300年前から湧出する「嬉野温泉」、500年前より栽培が始まった「嬉野茶」、400年の歴史をもつ「肥前吉田焼」の三つの歴史的伝統文化が息づく場所です。

日本の地方都市において、このような三つの文化が共存する場所は稀で、唯一無二の魅力を持つ土地とされています。

### 温泉



### 嬉野茶



### 肥前吉田焼





# —— 嬉 野 茶 時 ——

ち ゃ ど き

温泉

×

嬉野茶

×

肥前吉田焼



嬉野の地において数百年もの間、脈々と受け継がれる  
「温泉」・「うれしの茶」・「肥前吉田焼」の三つの歴史的伝統文化を、  
時代に合わせ新しい切り口で四季折々に表現するプロジェクトが「嬉野茶時」。

この地、この場所に住む私たちが  
全てを考え、全てを育み、全てをもてなすをコンセプトにしています。

# 企画

## 食す

茶に始まり、茶に終わる、食事会



嬉野晩餐会



フレンチ茶会



一茶一菓

## 飲む

生産者が栽培、製茶、ティーセレモニー、サーブ（提供）までの全てを担う



嬉野茶寮



嬉野茶寮 to go



The Tea Salon

## 買う

嬉野茶時で提供される茶葉を世界へ



セレクトショップ



歩茶



新茶会

## 観る

嬉野の歴史的伝統文化を新しい切り口で表現するミュージアム



吉田焼ミュージアム



嬉野茶ミュージアム



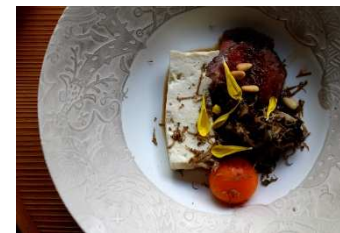
嬉野温泉ミュージアム

# コラボ企画





# 嬉野晚餐会



# フレンチ茶会

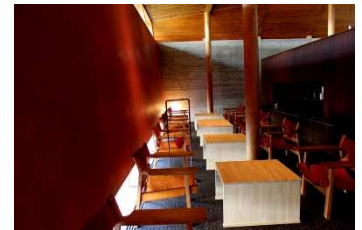




# 一茶一菓



# 嬉野茶寮





# 嬉野茶寮 to go





# TheTeaSalon



# 歩茶





# 新茶会





# セレクトショップ



# ミュージアム



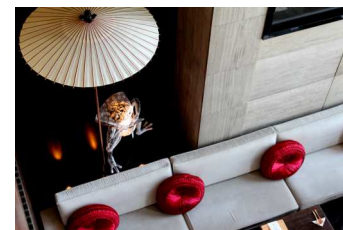


# インターコンチネンタルホテル東京

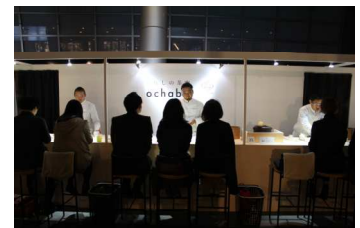




# マンダリンオリエントル東京

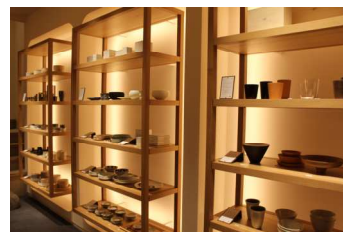
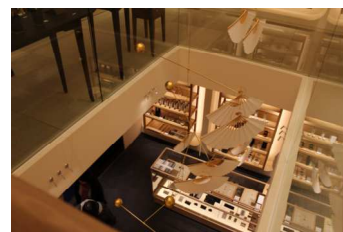


# 六本木ヒルズ (サガプライズ)





# マスターレシピ° (フランフラン)



嬉野茶時  
URESHINO  
CHADOKI



Francfranc



# 日本香堂



嬉野茶時

URESHINO  
CHADOKI

**Nippon Kodo**

# 掲載メディア



Discover Japan 2017.6



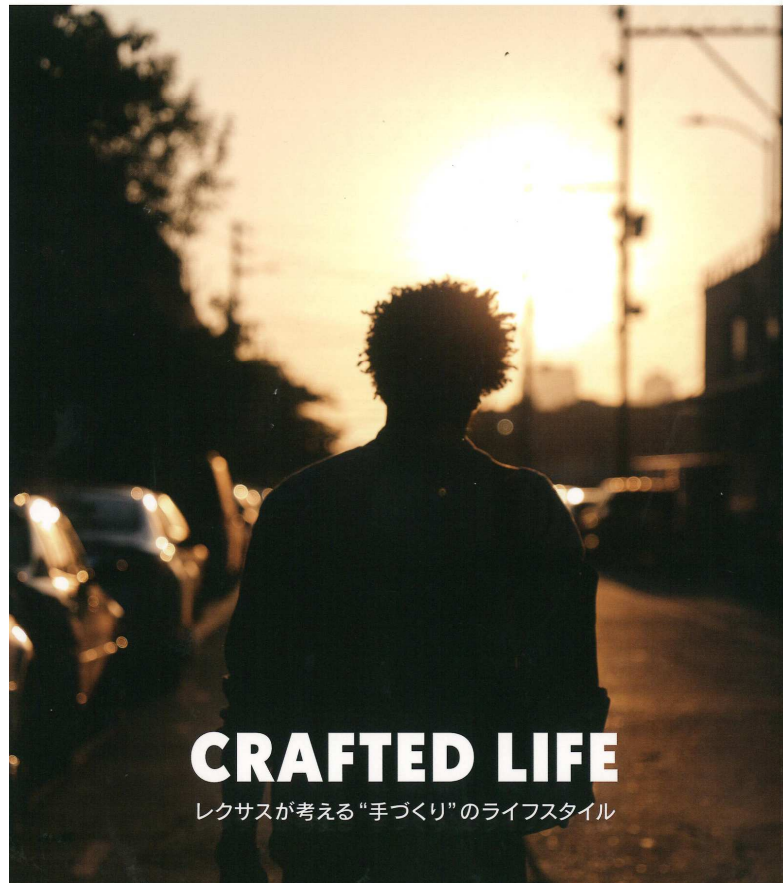
# 掲載メディア





# 掲載メディア

## LEXUS LIFESTYLE BOOK



嬉野茶時が考える、観光地・嬉野温泉の観光



# T e a T o u r i s m

ティーツーリズム

一杯のお茶を求めて旅が計画される、その旅先は嬉野。

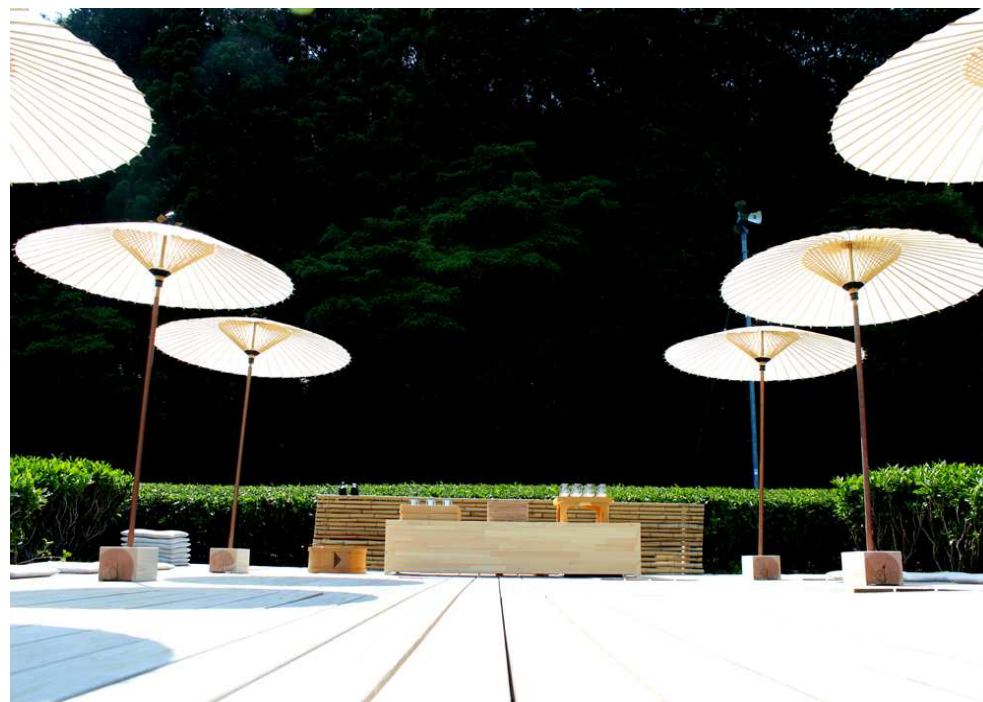


茶畑に点在するうれしの茶を愉しむ空間を巡る

# Tea Experience

## 茶空間体験

嬉野の茶畑には毎年10月から11月にかけて  
真っ白な茶の花が咲きます。  
下向きに咲く花は決して華美ではないものの、  
これから越冬を迎え、来春に新芽を生む親葉への  
はなむけの演出しています。  
茶畑に咲くその無数の白い茶の花のように、  
嬉野を包む山々の茶畑に「茶を愉しむ空間（茶花）」を  
無数に点在させ、嬉野の地を訪れる旅人の心と身体を  
癒す空間を創造し、365日その空間でお茶を提供します。  
「一杯のお茶を求めて旅が計画される」所以がここにあり、  
嬉野における至宝の一杯がここにあります。

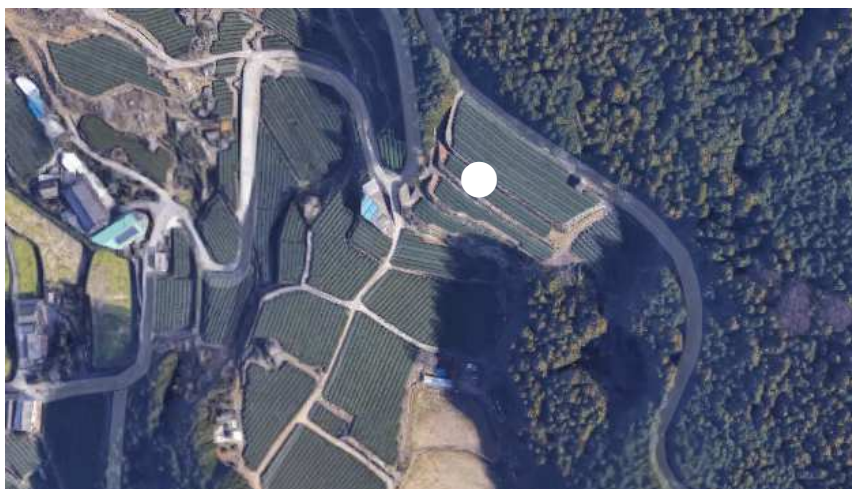




# 天茶台

副島園 2017年3月新設

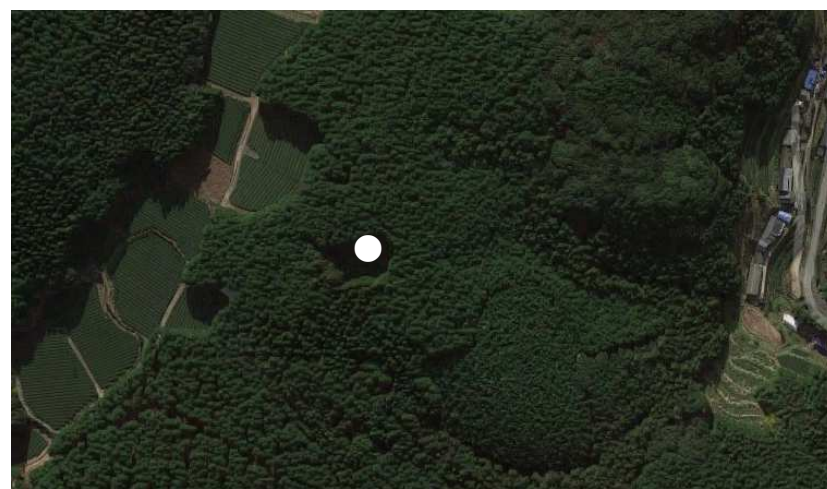
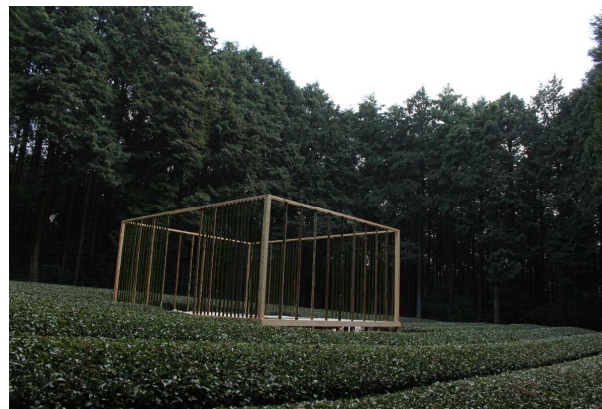
歩：60分 自転車：25分 自動車：12分  
\*嬉野市街地より



# 杜の茶室

永尾豊裕園 2018年4月新設

歩：120分 自転車：40分 自動車：20分  
\*嬉野市街地より





# 吉田茶室

副千製陶所 2018年1月新設

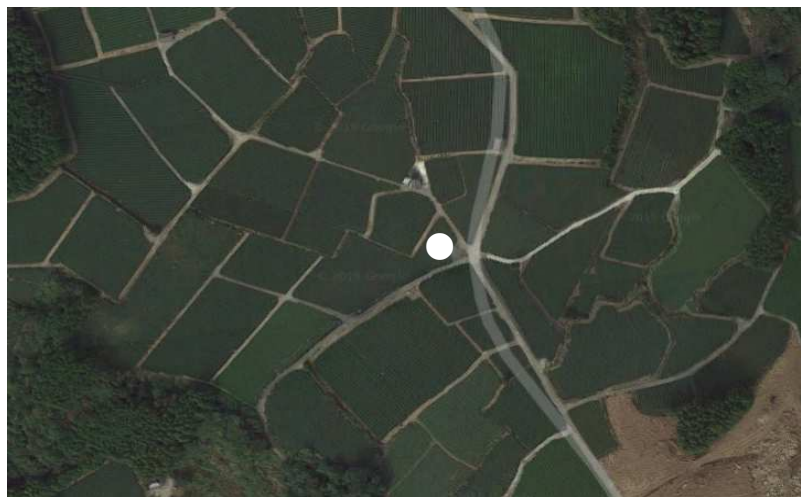
歩：50分 自転車：20分 自動車：10分  
\*嬉野市街地より



# 茶塔

池田農園 2019年4月新設

歩：120分 自転車：40分 自動車：20分  
\*嬉野市街地より





ゲスト滞在中のお茶のお世話を全て担うティーバトラー

# Tea Butler

茶泊  
ちゃはく

「ご滞在中のお茶のお世話を全ていたします  
〇〇と申します。」という台詞から嬉野の旅が始まります。  
ご宿泊のゲスト（1組）に対して、1名のティーバトラー  
が付きます。1室専属茶師付  
TeaTourismにおける最高峰の時間を提案いたします。  
滞在中のお茶のお世話、茶畑へのアテンド、  
茶空間におけるティーセレモニー、  
料理とのティーペアリングなど全てのお世話いたします。





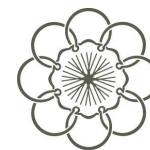


「茶空間体験（茶花）」と「観光スポット」を自転車で巡るショートトリップ

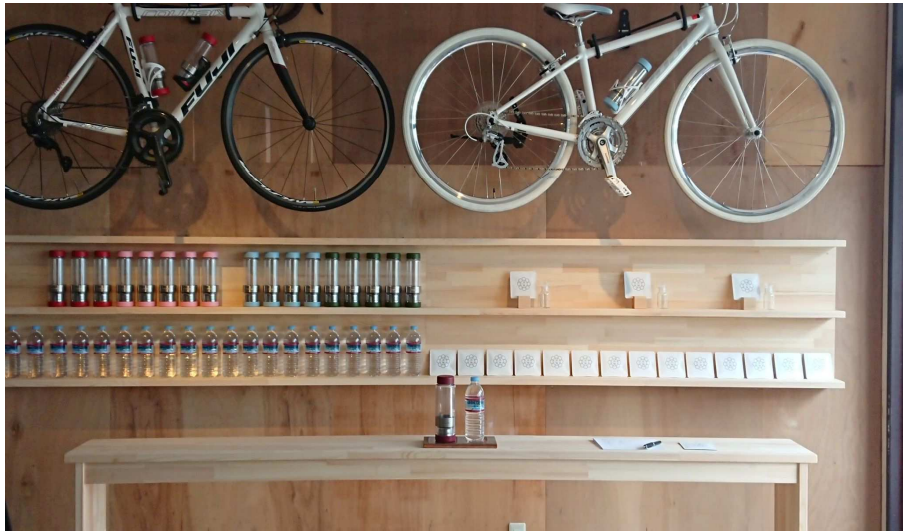
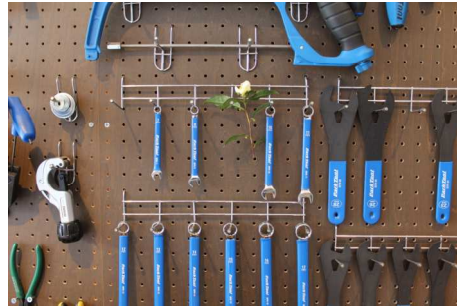
# Tea Cycling

茶輪  
ちゃりん

自転車で嬉野の茶畑、茶畑に点在する茶花（ちゃばな）、観光スポットを巡る、TeaCycling。  
TeaCyclingのどのシーンにおいても、嬉野茶が常備され、疲れた身体を癒します。  
市内のシモムラサイクルズにはレンタサイクルと合わせて、茶輪専用のティーステーションを構え、市内のお茶屋でもお替りキットを用意しています。  
また、徒歩や自転車では時間を要す山奥の茶花には地元タクシー会社と連携し、運転手付でご案内いたします。



茶輪  
CHARIN





うれしの茶を片手に歩きながら温泉や観光スポットを巡る

# Walking With Tea

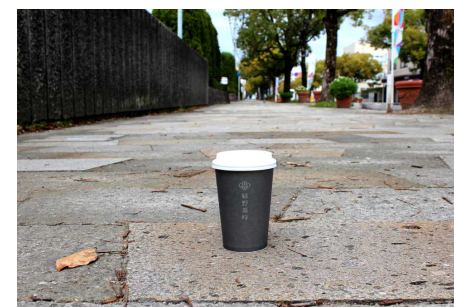
歩茶  
ほちゃ

うれしの茶を片手に、  
歩きながら温泉や観光スポットを訪れる。  
Walking with Tea  
急須ではなく、湯呑みではなく、新たな淹れ方飲み方へ。

「内」から「外」へ。「座」から「歩」へ。

上質なお茶をいつでもどこでも、  
歩きながら、嬉野の土地の魅力とともに味わえます。







生産農家と会話しながら清閑な空間でうれしの茶を楽しむ

# The Tea Salon

## 茶話

さわ

500年の歴史をもつうれしの茶。  
その歴史を支えた中心にるのがお茶の生産農家です。  
嬉野には今もなお数百名のお茶の生産者がいます。  
土・畑を作り、茶の木を植え、茶畑を栽培・管理し、  
茶葉を摘み、製茶・加工し、自らのお茶を美しき  
所作とともに、会話とともにゲストへ提供します。  
旅館に設えたティーサロン専用の空間にて、  
茶農家人生を語りながら、この地を訪れたゲストと  
ともに、お茶と時間をお愉しみいただけます。







## 温泉地に求められるトータルデザイン力

嬉野温泉におけるトータルデザイン力とは、  
数百年続く既存の土地の資産（温泉・お茶・吉田焼）を  
新しい切り口で再編集することで新しい価値を創造し、  
その価値を「TeaTourism(ティーツーリズム)」という  
新しくも普遍性を有する観光として提言し、  
その土地に住む市民が全てを実践していることである。